

## 令和元年度 第4回松山地域協議会

日 時 令和2年2月27日(木) 午後1時30分～3時25分

場 所 南部コミュニティセンター

出席委員 9名

齋藤吉男 阿部喜久子 後藤吉史 富樫とも子  
荘司東一 佐藤玲子 小田和夫 平向邦夫  
松本允夫

欠席委員 6名

齋藤明 佐藤徳康 齊藤薫 樋坂仁  
佐藤均 本間京子

酒田市出席者

上下水道部工務課長	高橋春樹
工務課施設主査	佐藤伸
松山総合支所長兼地域振興課長	遠藤裕一
建設産業課長	柿崎弘志
地域振興課長補佐兼市民係長	五十嵐昭一
地域振興課長補佐	出嶋亨
地域振興課地域振興係長	阿彦求
建設産業課長補佐兼建設係長	堀浩幸
建設産業課長補佐兼産業係長	石川亮一

傍聴者 1名

議事日程

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名人の指名

#### 4 議 事

##### 【報告事項】

- (1) 松山地区における断水について
- (2) 酒田市福祉乗合タクシーの松山庄内町線について
- (3) 旧3町地域における防災情報の伝達手段にかかる今後の方向性について

#### 5 その他

#### 6 閉 会

### 1 開 会

(遠藤支所長)

○地域協議会開会宣言

○欠席者の確認      齋藤   明   委員      佐藤   徳康   委員      齊藤   薫   委員  
                         樋坂   仁   委員      佐藤   均   委員      本間   京子   委員

### 2 会長あいさつ

- 今日のテーマにある断水の説明を伺い、松山地区の危機管理対策について意見交換したい。
- コロナウイルス流行っている。今年はオリンピックをはじめビッグイベントを抱えていることから効果的な対応策を模索いただき一刻も早い終息を願いたい。

### 3 議事録署人の指名

○本協議会の議事録署名人      阿部   喜久子   委員

#### 4 議 事

(小田会長)

議事に入ります。「(1) 松山地区における断水について」、説明をお願いします。

(上下水道部工務課長)

～資料に基づき説明～

(小田会長)

それでは、各コミ振会長より当日の状況と対応についてお話しいただきたいと存じます。まず山寺地区からお願いします。

(齋藤吉委員)

今回の断水では当地区には給水車が来ないとのことだったので、支所に給水用ポリタンクを依頼した。また、高齢でコミセンに来られない方には、飲料水として備蓄しているペットボトルで民生委員を通して、2、3本ずつ配布した。

(小田会長)

次に内郷地区お願いします。

(荘司委員)

高所に位置する東山一体の地区は完全に断水した。竹田・中牧田地区は松山地区でも一番低いところに位置しているが、水の出は細いものの断水することはなかった。給水車で対応してもらった事については感謝している。質問であるが、断水の定義についてお伺いしたい。

(小田会長)

松嶺地区お願いします。

(後藤吉委員)

午前7時に、断水の情報が入ったが、松嶺コミセンではまだ断水はしていない状況だったので、自治会長には松嶺コミセンでの給水は可能であるとの連絡をした。その後、給水車で臨時給水設備を設置して対応してもらった。給水に集まった人達の表情から単に断水の事なので余裕があるようにも見受けられたが、今回の件は災害時の対応としていい経験になったのではと思う。

ところで復旧工事で、管を立ち上げた箇所は冬季間の除雪機械が乗り上げても大丈夫か。

(上下水道部工務課長)

給水できる箇所が不足であったといったご指摘について、今回の断水対象地域が松山地区全域となりエリアが広がったことで、上下水道部の給水車3台と土木課からトラック1台を借用して計4台を投入し、さらには鶴岡市からも給水車1台の応援をいただいた。給水所は、水を求める住民へ常時対応しなければならないため、給水車と作業員を固定しなければならないこと、また、水が無くなった給水車への補水が必要となることから、今回のような配置になった。

今回の断水は松山地区のみであったが、もし地震災害になった場合、全市的な対応が求められることになるので給水車の保有台数も含めて今後充分検討していきたい。また今回の件を教訓として、松山総合支所との連携を図って、給水所へ来られない方への対応も検討したい。

ご質問にあった断水の定義については、水が完全に止まることを『断水』、止まらず水圧が弱い状態を『減水』と言う。今回、断水と言いつつも水が出ている所があったのは、管の中に残っている水が、高低差によって、低い地区へ流れ出たために出たものである。

今回は、配水池の出口で止まったため、時間の経過により、いずれ断水することになるので、

断水という放送をした。

また、復旧工事について、昨日から行っている肴町地区の復旧工事については、道路管理者と事前打ち合わせを行い、作業をしている。現在、上堰の上を通しているが、あくまで仮復旧の工事であり、本復旧は、箇所を検討し、上堰水路の下を通すことにしている。

(松本委員)

今回のライフラインの遮断に住民の動揺と恐怖を強く感じた。行政側での危機管理ということでの対応に加え、住民側としても常に備えをしなければならないと感じた。松嶺地区では防災無線が入らなかった戸数がかかなりあった。故障もあったようだが、このことも含めて住民としての意識を強く持っていきたい。

また、地域の共助として、過疎化・高齢化もあり、自治会長の指示で各組長に戸別訪問した。安否確認を兼ねて状況説明を行ったり、コミセンでの水供給の情報を確認したりしたことはいい事である。今回のような給水管の状況について類似の状況にある箇所が他にもあるのか教えてほしい。また今回、なぜ発生箇所がほぼ特定でき、すぐに掘削に入れたのかについても教えてほしい。

(上下水道部工務課長)

報道機関へ提出した資料では、平成12年に入替工事をおこなった管となっているが、実際に掘削したところ、山側からの地下水の流れが意外に多かったことから、あくまで私の推測ですが、入替しようとしたが、出来なかったのではないかと思われた。また当時、工事に携わった人からの聞き取りや資料等からもある程度の判断ができた。

箇所の特定については、遮断弁が閉まったことにより水道管の圧力がなくなっているため、水を吹き上げる力が無いということであり、これが晴天時であれば、道路に痕跡も残り、判断もつくが、道路に出てこなければ分からないことなので、閉まった遮断弁を少しずつ開け、水が出てきた箇所を見つけることで発生箇所をほぼ特定した。今回断水した管は水道管が3本入っている場所に布設された150ミリの管であり、切り離しが可能であったが、もし250ミリの管であったなら、復旧までさらに長い時間を要したと思う。

(平向委員)

民生委員・児童委員は、今回の断水を酒田市社会福祉協議会、松山地域包括支援センター及び民生委員の三者が連携して、今回の事態を災害と同等であると解釈をした。

したがって、全民生委員から各地区長に連絡し、弱者に対して即時の見回りを実施した。竹田地区が一番低い地区で、トイレも洗濯もできた。南部地区・臼ヶ沢は、洗濯はできなくともトイレは充分だった。地見興屋地区は午前8時頃から全く出なくなった。コミセンには給水車が午前

8時に来て、給水用のビニール袋の配給などでとても助かった。南部地区は民生委員だけが一生懸命動いたが自治会長は全く動かなかった。

(齋藤吉委員)

今回の断水とは関連のないことだが、山寺の橋の下にむき出しの配水管はまだ生きている管なのか。冬季間雪消し作業で凍って側溝が詰まることから、その管が生きているのか確認していただきたい。

(上下水道部工務課長)

場所を詳しく教えていただければ調査する。

(阿部委員)

今後も、配水管の老朽化などでこんな断水が起こり得るのか伺いたい。

(上下水道部工務課長)

老朽管については、順次に入れ替えを行っているが、今回のような記録に無い事例が出てくることもあるので、この件については今後の課題にさせていただきたい。今後は年代の不明な管も拾い上げて入れ替えを行っていききたい。

(阿部委員)

山寺地区も松山地域における4コミュニティの1つなので、給水車の配慮をお願いしたい。

(上下水道部工務課長)

とにかく今回の断水地域は広範囲に及んだ。ある程度狭い地域での発生であったなら、人員、給水車を各コミセンに配置しての給水も可能だったが今回は難しかった。今後の給水体制の強化も含めて考えていきたい。

(支所長)

支所職員がポリタンク20個程と給水用ビニール袋を松嶺コミセンから山寺コミセンへの運搬を行った。

(富樫委員)

断水のため、学校・保育園も休校となったばかりか、生活の全てがストップした。また同様のことがあるのではないかと心配している。是非早期の調査と対策をお願いしたい。

(佐藤玲委員)

朝6時の断水で、松山小学校が臨時休校になるのは考えられない。断水で臨時休校になるものかなと不思議に思った。

(上下水道部工務課長)

受水槽がある学校では1日の断水が休校につながることはないが、松山小学校には受水槽が無

く、直接水道管につながる構造になっていることから断水の影響をもろに受ける結果となった。小学校で一番懸念したのは、当日は行事も入っており、トイレの心配が大きかった。さらに校長先生との話から、手洗いやうがいができなくなることに起因した感染症対策に不安があることから、総合的に考えて臨時休校という形を取らせてもらったとのことである。

(松本委員)

社会の仕組みは、縦と横で考えると今回の場合は、縦が行政であり専門知識分野で、横は自治会・地域と考えると、災害時として行政側の適切な活動があったと思うが、横の流れとしての地域・自治会との連携などを考え直してみるためにも、特にこの辺は災害の少ないところなので、今回の事はとても良い教訓になったと思う。情報についての一番肝心なことは、人間の心の動きを大事にした情報のあり方である。地域の高齢者・各家庭に情のこもった対応のできるような情報のあり方、縦横のレベルで自治会・コミ振のレベルで大事にしていけるような地域でありたいと思っている。

(小田会長)

今回は事故の発生が朝食後の時間であった。これが夜中であつたら大変だった。いずれにしてもいい経験になったと思う。水の使い道としては飲料水用よりトイレを流すなど下水用が多い。つまり下水用として使用する水が無いといった場合はどうするのか。下水に使用する水は上水道水でなくとも構わない。例えばバケツ4個位に汲み置きしていれば半日は持つのではないか。

また、防災無線について、今回からデジタル化で、屋内と屋外を切り替えているので同時に鳴らないのでハウリングせず大変聞きやすかった。今回の防災無線の不具合地区については、原因究明をお願いしたい。

コミセンでの対応は大変良かったと思う、災害時のいい教訓になった。コミセンのあり方を今一度構築すべきでないか、この地域全体の起こりえる内容を精査していただきたい。

(上下水道部工務課長)

通常は飲用に適した水になってから復旧宣言をする場合が多いが、今回は、通水させることを優先して、トイレ使用を可能にすることを考えた。

今後ともこの地区で発生しうる事態を想定しながら、整備保全・訓練に努めていきたい。

(後藤吉委員)

給水用ビニール袋の配給はありがたかった。給水に来た住民の中には、飲料用には不向きな容器を持っている方が多かったことから大変助かった。その容器は水道部にだけストックされているものなのか。

(上下水道部工務課長)

そのとおり。

(後藤吉委員)

松山は酒田市内と橋でつながっている地区なので、災害等で橋が落ちてしまえばつながらなくなってしまいます。それを踏まえて各コミュニティセンターの防災資機材庫での備蓄についても検討してほしい。また、松山地区には現役の井戸があるので、これを大事にしていきたい。井戸からはポンプを使えば給水できる。

(荘司委員)

内郷コミセンは夜8時まで開放し、地区住民との情報交換ができるようにした。また今回の件でマスコミのテレビカメラがコミセン前に押し寄せて迷惑した。マスコミ対応についての窓口は行政で行っていただきたい。

(上下水道部工務課長)

今回の件ではマスコミからの対応を50件ほど行った。SNSの発達により一般人がこの度の事故をフェイスブック等に投稿し、それをマスコミも見ていることもあって、行政の発表前に既にマスコミが知っているといった事態になっていた。また、市役所に来るマスコミ関係者と現地の記者は別に動いていることもあってなかなか収拾がつかないのも事実である。

それで、現地の皆さんにご迷惑をお掛けしている可能性もあると思われる。こちらもSNSの発達により苦慮している。報道規制は難しいところもあるので、各社のモラルに任せているのが実情になっている。地域の皆さまから、まずはそういった声があったことを、マスコミ各社へ伝えさせていただく。

(建設産業課長)

第一報は、「会社に行くまえに水が吹いていたよ。」と通報があった。確認したらそこに砂があった、その時点では緊急遮断弁が降りていて、水は出ていなかった。そこを掘ったら、上堰の中に水が出ていて砂も石も出ていた。いくら探しても管が無かった。そこは全部新しい管で、その下を古い管が走っていて、そこから新しい管につないでいた。最終的には草木舎さん1件だけだったので、あれが200ミリと250ミリの管だったら、その日の内に復旧工事は終わらなかったと思う。その意味では不幸中の幸いだった。

(小田会長)

以上で本件については終了します。

次に「酒田市福祉乗合タクシーの松山庄内町線について」事務局より説明をお願いします。

(建設産業課長)

～資料に基づき説明～

(小田会長)

ただいまの説明に対し、ご質問、ご意見はありませんか。

(平向委員)

本件については、南部地区で長年懸案になっていた要望を、都市デザイン課の調査実施により、受け入れていただき、地元としても感謝している。ただ、去る2月23日に開催した「市政を語る会」でも申しあげたことだが、るんるんバスと比較して個人負担が1,000円に、余目地内でバスに乗り継げば、場所によってさらに何百円と出費があり、るんるんバスが走っているところと比較するとあまりにも格差が大きい。これが南部地区の本意である。将来的には価格の面での格差を解消していただきたい。

(建設産業課長)

るんるんバスを要望するのであれば利用者数を増やすこと。デマンドタクシーは乗合だが、利用者数はだいたい1名、多くても3名の実績である。まずは使っていただいて、その上で問題点があれば整理し、改善箇所を調整検討していく。とにかく「結構乗っていますね。」と言われるくらいの実績を出す必要がある。これをもって料金統一の話も出てくる。ただ、現在の利用状況では、近い将来、おそらく平田・八幡地区のバスも運行が難しくなるのではないかと危惧する。市街地においても全域でるんるんバスが走っているわけではなく、利用状況によってルートが決まっていくのではないかと考えている。

(小田会長)

デマンドタクシーは登録制度なので、意見として定期的に通院・買い物等に利用いただくため、スーパーマーケット、病院、駅などの拠点に定期運行するといった考えはないのか。

(建設産業課長)

利用者はほぼ特定されているので、今後の検討課題とさせていただく。

(後藤吉委員)

るんるんバスの利用で時刻表を松山地区の人たちにも普及するよう情報発信すべきである。

(建設産業課長)

るんるんバスの時刻表は庄内交通バスと一緒にいることから厚いので、路線経路を利用できるように検討してみる。

(阿部委員)

デマンドの利用実績を月計としての人数を聞きたい



(建設産業課長)

1か月に1、2名で5人乗りのタクシーなので、3名乗れば結構使っていると言える。一番多い時は5名で2台走らせたことがあったが最近少なくなっている。庄内交通が不便になった関係でデマンドタクシーへの切り替えのため登録した人もいるが、慣れていないからか、実際の利用頻度は低い。登録の際にも、使い勝手の良くなる方策、例えば「月2回は必ず使うというルート設定」など、条件面での整備もこれから必要なのではないかと考えている。

(小田会長)

デマンドタクシーと庄内交通バスの接続がわかるものがあれば示していただきたい。

(後藤吉委員)

都市デザイン課で持っているものと思われるが広く周知はされていない。

(建設産業課長)

デマンドタクシーへの登録率は高いが利用率は低い。病院の帰りにヤマザワに行くみたいに、乗り継いで使うとなどして利用率を上げてほしい。行政界を越えてデマンドタクシーを走らせるのは庄内では初めての試みなので是非利用していただきたい。

(富樫委員)

デマンドタクシーは高齢者・弱者が使うものと思っていた。わからないところがあるので説明願いたい。

(建設産業課長)

基本的に、行きは松山のタクシー、帰りは酒田のタクシーになる、帰りも松山のタクシーになれば、融通性がきくと思うが現況はこのようになっている。乗降場所はあらかじめ決められた拠点から拠点になっていて、乗るときは名前を確認される。

免許返納者は割引になるが免許返納証が必要である。登録さえすればしていれば誰でも乗れる。予約は配車の都合上、2時間前までとなっており、朝に利用したい場合は前日の予約となる。

問合せ先の窓口は1本になっているので電話していただきたい。やむを得ない事情によりキャンセルする場合は1時間前迄でないキャンセル料が発生する。

なお、利用者のほとんどが余目病院という想定なので、今回の拠点は余目病院ですが、その途中でヤマザワにも行けるようにしたので、乗り方も変わるだろうと思っている。さらに乗ってみてもらって状況が変わるかもしれない。

また、余目駅、町湯、余目病院と庄内町のバスがリンクした価格になっているので、今回の設定は病院に行ってから町湯に立ち寄ることができるなど利便性を考慮した設定になっている。乗り換えると行けるコースがあるので、是非使っていただきたい。

(小田会長)

以上で本件については終了します。

(小田会長)

最後に「旧3町地域における防災情報の伝達手段にかかる今後の方向性について」事務局より説明をお願いします。

(支所長)

～資料に基づき説明～

(後藤吉委員)

防災ラジオの価格は。

(支所長)

市の負担があるので個人負担額は4,000円である。

(小田会長)

防災ラジオは、災害が起きると自動的にスイッチが入るのか。

(建設産業課長)

そのとおり。大音量で放送してくれる。

(小田会長)

災害時の情報はよいが普段のお知らせの利用は可能か。

(支所長)

そもそも防災ラジオは、災害時にハーバーラジオを放送している周波数をジャックし、聞けなくして緊急放送を流すシステムになっており、その切り替えは危機管理課で行うことになる。したがって本当の意味での、防災放送だけになる。但し、普段のお知らせの一斉送信は支所が行うので、屋外無線機を通して聴くことができる。

(富樫委員)

防災ラジオの導入に際して何らかの告知は行うのか。

(支所長)

広報等での周知は図る予定である。

(富樫委員)

高齢者になってくると紙だけでの説明ではわからない。説明会は開催したいのか。

(支所長)

説明会を開いたとしても果たして集まっていただけなものなのかとも考えるが、検討したい。

(後藤吉委員)

老人クラブ等の会合などの機会を捉えて周知いただくのがよいと思う。

(小田会長)

以上で本件については終了します。

## 5 その他

(小田会長)

予定していた案件は以上ですが、委員の皆さんから何かありますか。

(後藤吉委員)

市政方針の中で市民団体と行政の協働による地域課題の効果的・効率的な解決を目指し「相互提案型協働事業」の試行を行うとあるが、いざ市民参加というときに、行政と市民団体が同等に力を出すことにはならないということである。行政職員はプロとしてやっているのに対し市民団体はそれを生業としてやっているわけではない、言わばボランティアとしてやっていることである。そもそもの立ち位置が違っていることを行政の皆さんには十分理解していただきたい。

(小田会長)

確かにボランティア活動に責任はない。報酬をもらってはじめて責任が生まれる。

(阿部委員)

庄内橋掛替工事について、橋脚を1年に1本ずつ足しているとのことだが、最近工事の進捗が速くなっているような気がする。経過を教えていただきたい。

(小田会長)

昨年の秋に県議会建設常任委員が視察に来た際に新庄内橋完成の鳥瞰図が示された。今のところ完成時期は分からないが、予算としては令和2年度で2億円ついているようである。

(建設産業課長)

工事の遅れの主な要因として、これまで国から県に付された予算で行っていたことから、災害が発生すればその復旧工事に対して優先的に回されてきたことがあげられる。しかしながら今年度から庄内橋の予算の一部は国の直轄になった。即ち庄内橋建設以外の目的には使えない予算になったことから工事が速くなった。このまま順調に進んでいけば、同じ条件で予算が付くので、早めに完成になることを期待している。

(松本委員)

2点お願いしたい。

1点目は防災無線でイベントの紹介として、山寺コミセンで盆栽同好会主催の梅花展に行つて

きましたが、是非これからも4コミセンの活動もこの地区全体に交流できる場ということで、引き続き利用できるよう期待している。

2点目は、てんぷら油廃油の回収について、自動車に使うと天ぷら臭いといった話があった。この件についてその後の経過について報告をお願いしたい。

(支所長)

1点目のコミセンのイベント情報に防災無線の活用に関しては公共性があれば大丈夫である。

(後藤吉委員)

今回の「コミ振だより」にも執筆したが、松山地区には4つのコミュニティあり、それぞれで活動している。その中で連絡調整機能としての松山地区コミュニティ振興会連絡協議会は、役員研修以外の事業を何も行っていない。

それぞれの活動については、それぞれのコミュニティで行うスタンスである。スポーツ振興は別枠だが、市巡回駅伝以外は予算化されていない。即ち事業はそれぞれのコミセンで計画し実施する。コミュニティ振興会連絡協議会はその中でお互いに連絡調整し合いながら、地域を良くしていくための役員同士の情報交換をおこなっている。つまり、松山地区コミュニティ振興会連絡協議会が松山全地域を対象として何かを事業を行うことは全く想定していないことを理解していただきたい。

(建設産業課長)

2点目の天ぷら油を利用した自動車については、酒田市衛生組織連合会で毎年春と秋の不法投棄回収の際に環境衛生課で使用する車のことである。今でも実用車両として有効利用している。

(齋藤吉委員)

今年は雪不足だが、スキー場の運営はどうなっているか。

(建設産業課長)

確認の上、報告する。

## 6 閉 会

(小田会長)

それでは、これをもちまして第4回松山地域協議会を終了いたします。委員の皆さま方には円滑な議事進行にご協力を賜りありがとうございました。